

日本聖公会  
大阪聖三一教会

礼拝堂 聖別式

集会室・牧師館 祝別式

救主降生 2022 年 9 月 19 日 14 時  
於：大阪聖三一教会



れいはいどうせいべつしき  
礼拝堂聖別式

主教は聖別に支障のないことを認めたとき、あらかじめ公告した日にこの式を行う。

当日、主教とともに聖職と侍者は礼拝堂の外に集まる。会衆は座って待つ。

主教は次のように言う。

ぜんのう かみ じだい たみ みちび いの さんび いえ た  
全能の神はいつの時代でもみ民を導いて祈りと賛美の家を建てさせ、それを  
せいべつ しゅ たみ ことば せいてん ほうし つと おこな ぼしょ  
聖別して、主の民がみ言葉と聖奠による奉仕の務めを行う場所としてくださ  
います。わたしたちは今、神のみ名によって大阪聖三一教会の建物を献げ、聖別  
するためにここに集まっています

主教 しゅ みな  
主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

主教 いの  
主 祈りましょう

ぜんのう かみ に ひと つく せ かい ととの はたら  
全能の神よ、みかたちに似せて人を造り、この世界を整える働きにあずから  
せてくださったことを感謝します。どうかわたしたちが献げるこの建物をみ名  
の栄光のために受け入れ、わたしたちが霊の家に建て合わせられ、世を去った  
ひと ひと とともに、主を礼拝する所として聖別してください。主イエス・キリス  
トによってお願いいたします。アーメン

主教は他の聖職、会衆とともに次の詩編を歌い唱えながら礼拝堂の外側を巡っても  
よい。また入口で唱えてもよい。

しへんだい へん  
詩編第84編

- 1 ばんぐん しゅ す うるわ  
万軍の主よ || あなたのみ住まいは麗しい
- 2 わたしの たましい しゅ にわ した ころ こ いのち よろこ うた  
わたしの魂は主の庭を慕い || 心を込めてあなたの命を喜び歌う
- 3 ばんぐん かみ おう かみ さいだん かたわら すずめ  
万軍の神、わたしの王、わたしの神よ || あなたの祭壇の傍らに、雀は  
すみかを見つ、燕は巣を作つてひなを育てる
- 4 しあわ ひと いえ す た たえ ず あなたを たたえる ひと  
幸せな人、あなたの家を住まいとし || 絶えずあなたをたたえる人
- 5 しあわ ひと ふる た じゅんれい ころざ ひと  
幸せな人 || あなたによって奮い立ち、巡礼を志す人
- 6 たに とお かれ はずみ あき あめ しゆくふく う  
かれた谷を通るとき、彼らはそこを泉とし || 秋の雨の祝福を受ける
- 7 ちから ちから つよ すす あお み  
力から力へと強められて進み || シオンであなたを仰ぎ見る

- 8 万軍の神、主よ、わたしの祈りに心を留め || ヤコブの神よ、耳を傾けて  
ください
- 9 神よ、わたしたちの盾よ || 油を注がれた者を顧みてください
- 10 あなたの庭で過ごす一日は、千日にもまさる || あなたに逆らう者の幕屋  
にとどまるより、あなたの家の門守としてください
- 11 神よ、あなたは光り輝く盾。恵みと栄えを与え || とがなく歩む者に幸  
せを拒まれない
- 12 神よ、万軍の主よ || あなたに寄り頼む人は 幸 せ  
栄光は || 父と子と聖霊に  
初めのように、今も || 世々に限りなく アーメン

主教は礼拝堂の入口に立ち、牧杖の石突きで堂の扉を三度たたいて言う。

門よ、開け

教会委員の一人は内側から扉を開く。

扉があげられたとき、主教は牧杖で入口に十字架の形を記しながら、次のように言う。

主の平和がこの家に入るすべての人びとにありますように、父と子と聖霊のみ  
名によって。アーメン

続いて次の聖歌を歌いながら主教は他の聖職、侍者とともに礼拝堂に入る。

聖 歌 301番 「恵み深き キリスト 主よ」 14頁

### 礼拝堂の聖別

主教 わたしたちの助けは主のみ名に

会衆 主は天地を造られました (詩 124:8)

主教 祈りましょう

常にわたしたちを守られる永遠の父よ、わたしたちとわたしたちが所有する  
すべてのものは主のものです。み言葉を聞き、み名をほめ、み赦しを求め、  
いやしのみ力にあずかり、また主の体と血によって養われるために礼拝堂  
を献げる今、わたしたちを受け入れてください。いつもここで主の民を導  
き、照らし、祝福してください

続いて会衆の代表者は次のように祈る。

主イエス・キリストよ、この礼拝堂を主の臨在の宮、祈りの家としてください。ここで主を尋ね求めるとき、いつもわたしたちの近くにいてください。一人で来るときも、ほかの人びととともに来るときも、わたしたちを主のもとに引き寄せてください。慰めと知恵を見出し、主に支えられ、強められ、喜びに満たされ、感謝を献げることができるようにしてください。主よ、わたしたちが清められ、主のご用に役立つため、ここで主と一つにされ、またほかの人びとと一つにされますように

続いて牧師は次のように祈る。

聖霊なる神よ、喜びにも苦しみにも、ますます主に近づくことができますようにわたしたちの目と耳を開いてください。主の家族に新しい人びとが加えられるとき、日々恵みのうちに成長していくとき、結婚の恵みにあずかるとき、病気や特別の悩みであなたに頼るとき、そしてついにこの世を去るとき、あなたの満ち満ちたみ力をもって、わたしたちとともにいてください

主教 父と子と聖霊のみ名によってこの礼拝堂を聖別してください

会衆 天にあるもの、地にあるものは皆あなたのものです

主教 主よ、国もまたあなたのものです

会衆 あなたは万有の頭としてあがめられます

アーメン

(歴代上 29:11)

### 集会室・牧師館の祝別

礼拝堂の会衆は集会室・牧師館のある礼拝堂後方へ向き直る。

主教 わたしたちの助けは主のみ名に

会衆 主は天地を造られました

主教 主は皆さんとともに

会衆 またあなたとともに

司式者 祈りましょう

全能の神よ、どうかこの集会室と牧師館を祝福し、きよめ、集会室を利用する信徒たち、また牧師館に住まう家族に天の恵みを満たし、身も魂も健やか

にし、<sup>かみ</sup>神と<sup>ひと</sup>人とに<sup>つか</sup>仕え、<sup>み</sup>御<sup>さか</sup>栄えを<sup>あらわ</sup>現すことが出来ますように。御子・わたしたちの<sup>しゅ</sup>主イエス・キリストによって<sup>ねが</sup>お願いいたします。アーメン

<sup>いのち</sup>命と<sup>あい</sup>愛の<sup>あた</sup>与え<sup>ぬし</sup>主である<sup>ぜんのう</sup>全能の<sup>かみ</sup>神よ、<sup>つか</sup>どうか<sup>おく</sup>み使いを送ってこの<sup>しゅうかいしつ</sup>集会室と<sup>しんと</sup>信徒たち、<sup>ぼくしかん</sup>牧師館と<sup>かぞく</sup>家族を守り、<sup>さいわ</sup>幸いをお与えくださいますように。救い主イエス・キリストによって<sup>ねが</sup>お願いいたします。アーメン

礼拝堂の会衆は礼拝堂前方へ向き直る。

## み 言 葉

主教 <sup>せいしよ</sup>聖書のみ<sup>ことば</sup>言葉を<sup>き</sup>聞きましょう

会衆は着席する。

### きゆうやくせいしよ 旧約聖書

朗読者 <sup>きゆうやくせいしよ</sup>旧約聖書は<sup>れつおう</sup>列王記上<sup>き</sup>第8章<sup>しやう</sup>22節から

ソロモンは、イスラエルの<sup>ぜんかいしゆう</sup>全会衆の前で、<sup>しゅ</sup>主の<sup>さいだん</sup>祭壇の前に<sup>た</sup>立ち、<sup>りやうて</sup>両手を<sup>てん</sup>天に<sup>の</sup>伸ばして、<sup>いの</sup>祈った。天も、<sup>てん</sup>天の<sup>てん</sup>天もあなたを<sup>おさ</sup>お納めすることが出来ません。わたしが<sup>た</sup>建てたこの<sup>しんでん</sup>神殿など、<sup>な</sup>なお<sup>ふ</sup>ふさわしくありません。わが<sup>かみ</sup>神、<sup>しゅ</sup>主よ、ただ<sup>しもべ</sup>僕の<sup>いの</sup>祈りと<sup>ねが</sup>願いを<sup>かえり</sup>顧みて、<sup>きやう</sup>今日<sup>しもべ</sup>僕が<sup>み</sup>御前に<sup>さ</sup>さげる<sup>さけ</sup>叫びと<sup>いの</sup>祈りを<sup>き</sup>聞き<sup>とど</sup>届けてください。そして、<sup>よる</sup>夜も<sup>ひる</sup>昼もこの<sup>しんでん</sup>神殿に、この<sup>ところ</sup>所に<sup>おんめ</sup>御目を<sup>そそ</sup>注いでください。ここはあなたが、『わたしの<sup>な</sup>名をとどめる』と<sup>おお</sup>仰せになった<sup>ところ</sup>所です。この<sup>ところ</sup>所に向かっ<sup>む</sup>て<sup>しもべ</sup>僕が<sup>いの</sup>ささげる<sup>き</sup>祈りを<sup>とど</sup>聞き<sup>しもべ</sup>届けてください。僕とあなたの<sup>たみ</sup>民イスラエルがこの<sup>ところ</sup>所に向かっ<sup>む</sup>て<sup>いの</sup>祈り<sup>もと</sup>求める<sup>ねが</sup>願いを<sup>き</sup>聞き<sup>とど</sup>届けてください。どうか、あなたのお<sup>す</sup>住まいである<sup>てん</sup>天に<sup>みみ</sup>いまして<sup>かたむ</sup>耳を<sup>き</sup>傾け、<sup>つみ</sup>聞き<sup>ゆる</sup>届けて、<sup>つみ</sup>罪を<sup>ゆる</sup>赦してください。

朗読者 <sup>きゆうやくせいしよ</sup>旧約聖書を<sup>お</sup>終わります

## し と しよ 使 徒 書

朗読者 <sup>し と しよ</sup>使徒書は<sup>もくしろく</sup>ヨハネの<sup>だい</sup>黙示録 <sup>しやう</sup>第21章<sup>せつ</sup>2節から

<sup>さら</sup>更にわたしは、<sup>せい</sup>聖なる<sup>みやこ</sup>都、<sup>あた</sup>新しいエルサレムが、<sup>おつと</sup>夫のために<sup>きかざ</sup>着飾った<sup>はなよめ</sup>花嫁の<sup>ようい</sup>よう意を<sup>ととの</sup>整えて、<sup>かみ</sup>神のもとを<sup>はな</sup>離れ、<sup>てん</sup>天から<sup>くだ</sup>下って<sup>く</sup>来るの<sup>み</sup>を見た。そのとき、

わたしは玉座ぎよくざから語りかたかける大きな声おおこえを聞いた。「見よ、神かみの幕屋まくやが人ひとの間にあって、神かみが人と共に住み、人は神かみの民たみとなる。神かみは自ら人と共にいて、その神かみとなり、彼らの目の涙なみだをことごとくぬぐい取とってくださる。もはや死しはなく、もはや悲しみかなも嘆きなげも労苦ろうくもない。最初さいしょのものは過ぎ去すったからである。」すると、玉座ぎよくざに座すわっておられる方が、「見よ、わたしは万物ばんぶつを新あたしくする」と言い、また、「書き記かせ。これらの言葉ことばは信しん頼らいでき、また真しん実じつである」と言いわれた。また、わたしに言いわれた。「事ことは成じやう就じゆした。わたしはアルファであり、オメガである。初はめであり、終おわりである。渴かわいている者ものには、命いのちの水みずの泉いづみからあたいのに飲しょうりませよう。勝え利ものを得うる者つは、これらのものを受け継つぐ。わたしはその者ものの神かみになり、その者ものはわたしの子ことなる。

朗読者 使徒書しとしょを終わおります

次に一同立たつ

聖せい 歌か 4 4 1 番ばん 「み言ことばは」 (2回) 1 8 頁ページ

## 福音書ふくいんしょ

執事または司祭は、唱和の後、次の福音書を歌いあるいは朗読する。

一同福音書の方を向く。

朗読者 主しゆは皆みなさんとともに

会衆 また、あなたとともに

朗読者 聖せいマタイによる福音書第7章 1 3 節以下に記された主イエス・キリストの福音。主しゆに栄光えいこう

会衆 主しゆに栄光えいこうがありますように

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」「そこで、わたしのこれらの言葉ことばを聞いて行おこなう者ものは皆、岩の上いわに自分うえの家じぶんを建てた賢いえい人たに似かしこている。雨ひとが降り、川にがあふれ、風あめが吹ふいてその家いわを襲おそっても、倒たおれなかつた。岩いわを土台どだいとしていたか

らである。」

福音書の朗読が終わったとき、次のように歌いまたは唱える。

朗読者 <sup>しゅ かんしゃ</sup> 主に感謝

会衆 <sup>しゅ かんしゃ</sup> 主に感謝します

せつ きょう  
説 教

ニケヤ信 経 <sup>しんきょう</sup>

わたしたちは、<sup>ゆいつ かみ ぜんのう ちち てんち</sup>唯一の神、全能の父、天地とすべて見えるものと見えないもの  
<sup>つく めし しん</sup>の造り主を信じます。

また、<sup>よよ さき ちち う</sup>世々の先に父から生まれた<sup>ひと ご しゅ</sup>独り子、主イエス・キリストを信じます。主  
<sup>かみ かみ ひかり ひかり かみ つく</sup>は神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、造られず、生ま  
<sup>ちち いったい</sup>れ、父と一体です。すべてのものは主によって造られました。主はわたしたち  
<sup>じんるい</sup>人類のため、またわたしたちを救うために<sup>すく てん くだ</sup>天から降り、<sup>せいれい</sup>聖霊によっておとめマ  
<sup>にくたい う</sup>リヤから肉体を受け、人となり、ポンテオ・ピラトのもとで、わたしたちのため  
<sup>じゅうじか</sup>に十字架につけられ、<sup>くる</sup>苦しみを受け、<sup>し ほうむ</sup>死んで葬られ、<sup>せいしょ</sup>聖書にあるとおりに<sup>みっかめ</sup>三日目  
<sup>てん のほ</sup>によみがえり、天に昇り、父の右に座しておられます。また、<sup>い</sup>生きている人と  
<sup>し ひと</sup>死んだ人とを<sup>さば</sup>審くため、<sup>えいこう</sup>栄光のうちに<sup>ふたたび</sup>再び来られます。その<sup>くに</sup>国は<sup>お</sup>終わることが  
ありません。

また、<sup>しゅ せいれい しん</sup>主なる聖霊を信じます。聖霊は<sup>せいれい いのち あた めし ちち こ</sup>命の与え主、父と子から出られ、父と子  
<sup>おが</sup>とともに<sup>よげんしゃ</sup>拝みあがめられ、<sup>かた</sup>預言者によって語られた主です。また、<sup>しと</sup>使徒たちか  
<sup>ゆいつ せい こうかい しん</sup>らの唯一の聖なる公会を信じます。罪の<sup>つみ ゆる</sup>赦しのための唯一の<sup>ゆいつ せんれい しんにん</sup>洗礼を信認し、死  
<sup>しゃ</sup>者のよみがえりと<sup>らいせい いのち</sup>来世の命を<sup>まのぞ</sup>待ち望みます アーメン

だい とう  
代 禱

一同立つ。

司祭は次のように言う。司祭または会衆の代表者が言ってもよい。

司祭 <sup>すく めし</sup> 救い主イエス・キリストのみ<sup>ことば わざ たよ</sup>言葉とみ業に頼り、<sup>ぜんこうかい</sup>全公会のため、ま  
<sup>せかい</sup>た世界の<sup>いの</sup>ために祈りましょう



代表者 <sup>かみ しゅ こうかい にっぽんせいこうかいおおさかきょうく つよ こ わざ</sup> 神よ、主の公会、ことに日本聖公会大阪教区を強めて、み子のみ業を  
<sup>おこな</sup> 行わせてください。すべての<sup>せいしよく しんと</sup> 聖職と信徒、ことにわたしたちの<sup>しゅきょう</sup> 主教  
<sup>な よ もの しゅ しんり あい</sup> アンデレを導き、み名を呼ぶ者を主の真理と愛のうちに一致させ、  
<sup>ひ び しゅ えいこう よ あらわ もの</sup> 日々主の栄光をこの世に現す者とならせてください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

各応答の後に、しばらく黙祷してもよい。

代表者 <sup>かみ く に ひと ち え あた せいぎ へいわ</sup> 神よ、すべての国（ことに——）の人びとに知恵を与えて正義と平和  
<sup>みち みちび たが せんけい ところ あた</sup> の道に導いてください。互いに尊敬する心を与え、ともにすべての  
<sup>ひと さいわ もと</sup> 人の幸いを求めさせてください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

代表者 <sup>かみ かぞく ゆうじん とな ひと</sup> 神よ、わたしたちと家族、すべての友人と隣り人（ことに——）に  
<sup>めぐ あた しゅ し つか たが あい</sup> 恵みを与え、ともに主を知り、主に仕え、互いに愛することができ  
るようにしてください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

代表者 <sup>かみ なや ひと かな ひと びょうき ひと まず ひと た わざわ なか</sup> 神よ、悩む人、悲しむ人、病気の人の、貧しい人、その他災いの中にあ  
<sup>ひと かえり ちから あた ゆうき きぼう ま</sup> る人びと（ことに——）を顧み、み力を与えて、勇氣と希望を増し  
<sup>くわ しゅ すく よろこ みちび</sup> 加え、主の救いの喜びに導いてください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

代表者 <sup>かみ よ さ ひと かえり うえ</sup> 神よ、世を去ったすべての人（ことに——）を顧み、かれらの上に  
<sup>しゅ あい むね な と</sup> 主の愛のみ旨を成し遂げてください。わたしたちは、世々に主のあか  
<sup>あた しゅ めぐ な</sup> しぶとたちに与えられた主の恵みのゆえに、み名をたたえます。どう  
<sup>かれ まじ たも</sup> か、わたしたちも、彼らとの交わりを保ち、ともに<sup>くに えいこう</sup> み国の栄光にあず  
からせてください

一同 <sup>しゅ こ ねが</sup> 主よ、これらのことをみ子イエス・キリストによってお願いいたしま  
す アーメン

ざん げ  
懺 悔

執事または司祭 <sup>そな もの ささ みずか ささ しゅ さだ</sup> み心にかなう<sup>せいてん おこな</sup> 供え物を<sup>つみ ざんげ</sup> 献げ、また自らを<sup>つみ ざんげ</sup> 献げて、主が定めら  
れたこの<sup>せいてん おこな</sup> 聖奠を行うために、ともに<sup>つみ ざんげ</sup> 罪を懺悔しましょう

会衆はひざまずく。

主教 <sup>ちち こ せいれい ぜんのう かみ てん かいしゅう きょうだいしまい まえ</sup> 父と子と聖霊なる全能の神、および天の会衆と兄弟姉妹の前に、わた

しは、<sup>おも</sup>思いと、<sup>ことば</sup>言葉と、<sup>おこな</sup>行いによって、<sup>おお</sup>多くの<sup>つみ</sup>罪を犯していることを<sup>ざん</sup>懺悔します。神よ、どうかわたしを<sup>あわ</sup>憐れみ<sup>ゆる</sup>赦してください。兄弟姉妹よ、わたしのために<sup>しゅ</sup>主なる<sup>かみ</sup>神に<sup>いの</sup>祈ってください

会衆 <sup>ぜんのう</sup>全能の<sup>かみ</sup>神が<sup>あわ</sup>あなたを<sup>あわ</sup>憐れみ、<sup>つみ</sup>すべての<sup>ゆる</sup>罪を赦してくださいますように

主教 アーメン

会衆 <sup>ちち</sup>父と<sup>こ</sup>子と<sup>せいれい</sup>聖霊なる<sup>ぜんのう</sup>全能の<sup>かみ</sup>神、<sup>てん</sup>および<sup>かいしゅう</sup>天の<sup>しゅきょう</sup>会衆と<sup>まえ</sup>主教の前に、わたしたちは、<sup>おも</sup>思いと、<sup>ことば</sup>言葉と、<sup>おこな</sup>行いによって、<sup>おお</sup>多くの<sup>つみ</sup>罪を犯していることを<sup>ざん</sup>懺悔します。神よ、どうかわたしたちを<sup>あわ</sup>憐れみ<sup>ゆる</sup>赦してください。主教よ、わたしたちのために<sup>しゅ</sup>主なる<sup>かみ</sup>神に<sup>いの</sup>祈ってください

主教 <sup>ぜんのう</sup>全能の<sup>かみ</sup>神が<sup>みな</sup>皆さんを<sup>あわ</sup>憐れみ、<sup>つみ</sup>すべての<sup>ゆる</sup>罪を赦し、<sup>めぐ</sup>恵みと<sup>ちから</sup>力を与え、<sup>みこころ</sup>み心にか<sup>あた</sup>ら<sup>しょうがい</sup>新しい<sup>おく</sup>生涯を送らせてくださいますように

会衆 アーメン

一同立つ。

せい さん  
聖 餐

へいわ あいさつ  
平和の挨拶

主教 <sup>しゅ</sup>主の<sup>へいわ</sup>平和が<sup>みな</sup>皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

主教 <sup>へいわ</sup>平和の<sup>あいさつ</sup>挨拶を<sup>か</sup>交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

ほう けん  
奉 献

執事または司祭 <sup>な</sup>み名に<sup>えいこう</sup>ふさわしい<sup>しゅ</sup>栄光を<sup>き</sup>主に<sup>そな</sup>帰し、<sup>もの</sup>供え物を<sup>ささ</sup>献げましょう。

<sup>しゅ</sup>主に<sup>えら</sup>選ばれ、<sup>しゅ</sup>主に<sup>ちか</sup>近づけられて、<sup>しゅ</sup>主の<sup>おおいわ</sup>大庭に<sup>す</sup>住む人は<sup>ひと</sup>幸いである。<sup>さいわ</sup>主の

<sup>いえ</sup>家、<sup>しゅ</sup>主の<sup>せい</sup>聖なる<sup>みや</sup>宮の<sup>めぐみ</sup>恵によって<sup>あ</sup>飽くことができる

〔本日の信施（献金）は 大阪聖三一教会、および博愛社のために献げられます〕

せい か ばん ページ  
聖 歌 391番 「いとも とうとき」 16頁

主教 <sup>ぜんのう</sup> <sup>ちち</sup> <sup>かみ</sup> 全能の父なる神よ、この「<sup>しん</sup> <sup>せ</sup> 信施」<sup>そな</sup> <sup>もの</sup> <sup>う</sup> 供え物を受け、<sup>しゅ</sup> <sup>わざ</sup> 主のみ業のために<sup>もち</sup> 用いてください

会衆 <sup>しゅ</sup> <sup>たまもの</sup> すべてのは主の賜物。わたしたちは主から<sup>しゅ</sup> <sup>う</sup> 受けて主<sup>しゅ</sup> <sup>ささ</sup> げましたのです  
アーメン

## かん しゃ せい べつ 感謝 聖 別

主教 <sup>しゅ</sup> <sup>みな</sup> 主は皆さんとともに

会衆 **また、あなたとともに**

主教 <sup>こころ</sup> <sup>かみ</sup> 心を神に

会衆 <sup>しゅ</sup> <sup>こころ</sup> <sup>ささ</sup> 主に心を献げます

主教 <sup>しゅ</sup> <sup>かみ</sup> <sup>かんしゃ</sup> 主なる神に感謝しましょう

会衆 <sup>かんしゃ</sup> <sup>さんび</sup> <sup>つと</sup> 感謝と賛美はわたしたちの務めです

主教 <sup>ちち</sup> 父よ、わたしたちは、あなたの<sup>あい</sup> 愛される<sup>こ</sup> み子イエス・キリストによって主<sup>しゅ</sup> に<sup>かんしゃ</sup> <sup>ささ</sup> 感謝を献げます。

あなたはこの<sup>お</sup> 終わりの<sup>とき</sup> 時に、<sup>こ</sup> <sup>すく</sup> <sup>ぬし</sup> <sup>あがな</sup> <sup>ぬし</sup> み子を救い主、<sup>むね</sup> <sup>ししや</sup> 贖い主、またみ旨の使者としてこの<sup>よ</sup> 世<sup>つか</sup> にお遣わしになりました。み子は、<sup>ちち</sup> <sup>いったい</sup> <sup>い</sup> 父と一体の<sup>ことば</sup> 生きたみ言です。父はみ言によって<sup>ちち</sup> <sup>ことば</sup> 万物を造り、これを<sup>よ</sup> 良いものとされました。

父はみ子を<sup>ちち</sup> <sup>こ</sup> <sup>てん</sup> 天からおとめ<sup>たい</sup> <sup>つか</sup> マリヤの胎にお遣わしになり、<sup>たいない</sup> <sup>にくたい</sup> <sup>そな</sup> 胎内で<sup>こ</sup> 肉体を備え、<sup>せいれい</sup> <sup>う</sup> 聖霊とおとめから<sup>こ</sup> 生まれたあなたの<sup>あらわ</sup> み子として<sup>こ</sup> 現されました。み子は<sup>むね</sup> <sup>じょうじゅ</sup> <sup>ちち</sup> み旨を成就して父のために<sup>せい</sup> <sup>たみ</sup> <sup>ととの</sup> 聖なる民を整え、父に<sup>ちち</sup> <sup>しんらい</sup> 信頼する者を<sup>もの</sup> <sup>くる</sup> 苦しみから<sup>と</sup> <sup>はな</sup> 解き放つために、<sup>て</sup> <sup>ひろ</sup> <sup>くる</sup> み手を広げて<sup>し</sup> <sup>し</sup> <sup>ほろ</sup> 苦しみを忍び、<sup>あくま</sup> 死を滅ぼし、<sup>う</sup> <sup>やぶ</sup> <sup>あたら</sup> <sup>いのち</sup> <sup>ふっかつ</sup> <sup>しょうり</sup> <sup>あらわ</sup> 悪魔のかせを打ち破り、<sup>う</sup> <sup>やぶ</sup> <sup>あたら</sup> <sup>いのち</sup> <sup>ふっかつ</sup> <sup>しょうり</sup> <sup>あらわ</sup> 新しい命に復活して勝利を現されました。

主教 <sup>しゅ</sup> <sup>そんげん</sup> <sup>かぎ</sup> 主の尊厳は限りなく、<sup>てん</sup> <sup>ち</sup> <sup>しゅ</sup> <sup>い</sup> 天も地も主をお入れするに足りません。しかし、<sup>しゅ</sup> <sup>れいはい</sup> <sup>どう</sup> <sup>きよ</sup> <sup>しん</sup> <sup>もの</sup> <sup>めぐ</sup> <sup>あた</sup> 主は礼拝のために堂を清め、信じる者に<sup>よ</sup> 恵みを与えることを良しとされました。

ゆえにわたしたちは、<sup>つか</sup> <sup>つか</sup> <sup>かしら</sup> <sup>てん</sup> <sup>ぜんかいしゅう</sup> み使いとみ使いの頭および天の全会衆とともに、<sup>しゅ</sup> <sup>どうと</sup> <sup>な</sup> <sup>つね</sup> <sup>しゅ</sup> <sup>うた</sup> 主の尊いみ名をあがめ、常に主をたたえて歌います

一同次の言葉を歌いまたは唱える。

せいなるかな、せいなるかな、せいなるかな、ばんぐんかみ  
主の栄光は天地に満つ

いと高きところにホサナ

ほめたたえよ、主のみ名によって来られる方を、

いと高きところにホサナ

主教 まことに尊い、すべての聖なるものの源である父よ、あなたの賜物であるこのパンとぶどう酒の上に聖霊を送り、これをわたしたちのためにみ子イエス・キリストの体と血にしてください。

主イエスは、進んで引き受けられた苦しみに身を渡されることになったとき、パンを取り、感謝してこれを裂き、弟子たちに与えて言われました。「取って食べなさい。これはあなたがたのために与えるわたしの体です。わたしを記念するため、このように行いなさい」

また食事の後、杯を取り、感謝して彼らに与えて言われました。「皆この杯から飲みなさい。これは罪の赦しを得させるようにと、あなたがたおよび多くの人のために流すわたしの新しい契約の血です。飲むたびにわたしの記念としてこのように行いなさい」

一同 キリストは死に  
キリストはよみがえり  
キリストは再び来られます

主教 父よ、わたしたちは今、み子、主イエス・キリストの死と復活、昇天を記念し、わたしたちを、み前に立たせ、祭司として仕えさせてくださることを感謝し、このパンと杯を献げます。わたしたちがあなたの聖なる賜物にあずかるとき、聖霊を降し、世にある者も世を去った者も、すべての人を一つの体とし、聖霊を満たしてください。わたしたちの信仰が真理のうちに強められ、すべての聖徒とともにみ子イエス・キリストによって主を賛美し、ほめたたえることができますように

一同 栄光と誉れは、聖なる教会の交わりの中で、聖霊とともにいます全能の

ちち かみ しゅ いま よ よ かぎ  
父なる神に、主キリストによって、今も、世々に限りなくありますよう  
に アーメン

ばい さん  
陪 餐

主教 すく めし おし いの  
救い主キリストが教えられたように祈りましょう

一同次の祈りを唱える。

てん  
天におられるわたしたちの父よ、

な せい  
み名が聖とされますように。

くに き  
み国が来ますように。

てん おこな ち おこな  
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

ひ かて きょう あた  
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

つみ ひと  
わたしたちの罪をおゆるしくください。わたしたちも人をゆるします。

ゆうわく  
わたしたちを誘惑におちいらせず、

あく すく  
悪からお救いください。

くに ちから えいこう えいえん  
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

主教 わたしたちがパンを裂くとき

会衆 キリストの体にあずかります

主教 パンが一つであるから

会衆 わたしたちは多くいても、一つの体です

よ つみ のぞ かみ こひつじ あわ あた  
世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください

よ つみ のぞ かみ こひつじ あわ あた  
世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください

よ つみ のぞ かみ こひつじ しゅ へいあん あた  
世の罪を除く神の小羊よ、主の平安をお与えください

司祭とほかの受聖餐者が陪餐する。分餐のとき、おのおのに次のように言い、

陪餐者は「アーメン」と言う。

あなたのために与えられた主イエス・キリストの体

アーメン

あなたのために流された主イエス・キリストの血

アーメン

主教 <sup>いの</sup>祈りましょう

一同次の祈りを唱える。

<sup>えいえん</sup>永遠にいます全能の神よ、この<sup>せいぜん</sup>聖奠にあずかった<sup>もの</sup>者を、<sup>こ</sup>み子イエス・キリスト  
<sup>とうと</sup>の尊い<sup>からだ</sup>体と<sup>ち</sup>血をもつて、<sup>やしな</sup>養ってくださることを感謝します。主はこれによつ  
<sup>こ</sup>て、わたしたちが<sup>み子</sup>の<sup>からだ</sup>体のえだであり、<sup>くに</sup>み国の<sup>よつ</sup>世継ぎであることをいよいよ  
<sup>あき</sup>明らかにしてくださいました。天の<sup>てん</sup>父よ、わたしたちは<sup>み子</sup>によって、<sup>こころ</sup>心も<sup>からだ</sup>体  
も<sup>い</sup>生きた<sup>そな</sup>供え物として<sup>ささ</sup>献げます。どうか、<sup>せいれい</sup>聖霊によってわたしたちをこの<sup>よ</sup>世に  
<sup>つか</sup>遣わし、<sup>むね</sup>み旨を<sup>おこな</sup>行う<sup>もの</sup>者とならせてください。栄光は<sup>えいこう</sup>世々に<sup>よ</sup>限りなく、<sup>ちち</sup>父と<sup>こ</sup>子と  
<sup>せいれい</sup>聖霊にありますように **アーメン**

主教 <sup>ぜんのう</sup>全能の神よ、<sup>な</sup>み名のために<sup>ささ</sup>献げられたこの<sup>れいはいどう</sup>礼拝堂で<sup>こと</sup>み<sup>ば</sup>言葉を<sup>き</sup>聞き、<sup>しゅ</sup>主に  
<sup>いの</sup>祈り、<sup>せいぜん</sup>聖奠にあずかる<sup>ひと</sup>人びとに<sup>ゆた</sup>豊かな<sup>めぐ</sup>恵みをお<sup>あた</sup>与えください。父と<sup>ちち</sup>聖霊  
とともに<sup>いったい</sup>一体であつて<sup>よ</sup>世々に<sup>い</sup>生き<sup>しはい</sup>支配して<sup>しゅ</sup>おられる<sup>しゅ</sup>主イエス・キリス  
トによって<sup>ねが</sup>お願いいたします。 **アーメン**

<sup>ちち</sup>父と<sup>こ</sup>子と<sup>せいれい</sup>聖霊なる全能の神の<sup>めぐ</sup>恵みが、<sup>つね</sup>常に<sup>みな</sup>皆さんとともにありますよ  
うに。 **アーメン**

## 「<sup>せいべつ</sup>聖別の<sup>しょう</sup>証」の<sup>じゅよ</sup>授与

来賓ご紹介

一同、立って次の唱和を用いる。

執事または司祭 <sup>しゅ</sup>ハレルヤ、主とともに<sup>い</sup>行きましょう

会衆 <sup>しゅ</sup>ハレルヤ、主のみ名によって **アーメン**

<sup>せい</sup>聖 <sup>か</sup>歌 <sup>ばん</sup>400番 「<sup>よろこ</sup>喜びの <sup>つ</sup>み<sup>げ</sup>み告げ」 <sup>ページ</sup>19頁

+.....+

キャンドルが消されたら、ご自由に退堂してください。礼拝堂の外で記念撮影をします。

本日はありがとうございました。



[ユニゾン]

1 めぐみふかきキリスト主よききたい  
 2 かみのたみはまねきををうけこのたい  
 3 このみみとうはみくにのかとどに世のた  
 4 このみみとうにつどうひとにみちび

まええかんのうたいまささぐる  
 えにをあつめられはのちのパン  
 びをとあゆむひとわのくちの  
 きとめぐみあたえあいのみちる

かみのみどをしゅくしなたまえ  
 血のさかずきにやまねかせたれゆるく  
 いのちをのいえとまなさせられたまえ  
 いのりののいえとまなさせられたまえ

Christe cunctorum dominator alme  
 Latin, 9c.

CHRISTE SANCTORUM  
*Antiphoner*, 1681  
 harm. Ralph Vaughan Williams (1872-1958)



1 恵<sup>めぐ</sup>み<sup>ふか</sup>深<sup>き</sup>き      キリスト<sup>しゅ</sup> 主<sup>よ</sup>  
聞<sup>き</sup>きた<sup>ま</sup>え      感<sup>かん</sup>謝<sup>しゃ</sup>の<sup>うた</sup>歌<sup>うた</sup>  
いま<sup>ささ</sup>献<sup>ぐる</sup>ぐる      神<sup>かみ</sup>の<sup>せい</sup>聖<sup>堂</sup>堂<sup>どう</sup>を  
祝<sup>しゆく</sup>した<sup>ま</sup>え

2 神<sup>たみ</sup>の<sup>たみ</sup>民<sup>は</sup>は      招<sup>まね</sup>き<sup>う</sup>を<sup>う</sup>受け<sup>け</sup>  
この<sup>いえ</sup>家<sup>に</sup>に      集<sup>あつ</sup>め<sup>ら</sup>れて<sup>て</sup>  
命<sup>いのち</sup>の<sup>ち</sup>パン<sup>さかずき</sup>      血<sup>ち</sup>の<sup>さかずき</sup>杯<sup>に</sup>に  
養<sup>やしな</sup>わ<sup>れる</sup>れる

3 この<sup>くに</sup>み<sup>くに</sup>ど<sup>くに</sup>う<sup>くに</sup>は      み<sup>くに</sup>国<sup>くに</sup>の<sup>かど</sup>か<sup>かど</sup>ど  
世<sup>よ</sup>の<sup>たび</sup>旅<sup>を</sup>を      歩<sup>あゆ</sup>む<sup>ひと</sup>人<sup>は</sup>は  
永<sup>と</sup>遠<sup>わ</sup>の<sup>くに</sup>国<sup>の</sup>の      命<sup>もと</sup>を<sup>もと</sup>求<sup>め</sup>め  
招<sup>よ</sup>か<sup>れ</sup>ゆ<sup>く</sup>く

4 この<sup>つど</sup>み<sup>つど</sup>ど<sup>つど</sup>う<sup>つど</sup>に      集<sup>あつ</sup>う<sup>あつ</sup>人<sup>に</sup>に  
導<sup>みちび</sup>き<sup>と</sup>と      恵<sup>あ</sup>み<sup>あ</sup>与<sup>え</sup>え  
愛<sup>あい</sup>の<sup>み</sup>満<sup>み</sup>ち<sup>る</sup>る      祈<sup>いの</sup>り<sup>の</sup>家<sup>と</sup>と  
な<sup>な</sup>さ<sup>さ</sup>せ<sup>せ</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>え

代下6：18-21、33 詩65：2-5 1マカ7：37 イザ56：7 1コリ10：16-17

1 い と も と き う と き ま 主 は あ も り て  
 2 世 と に い と き ら と た き み ま は ね あ き も り う て  
 3 た え に ぬ あ こ ら ら そ た い み さ た り し を た さ み き と  
 4 世 に の こ ら ら そ た い み さ た り し を た さ み き と

血 の の あ た い も て た み を す く い  
 の ぞ と み の も そ ひ とり つ た ざ も ひ と ど つ も  
 の ひ と も に そ ま し わ り な や み む あ お ぎ  
 と も に そ ま し わ り な や み む あ お ぎ

き よ き す ま い を つ く り た て て  
 ひ と み わ の た え か て る と い も の に り を け き て  
 か と み わ の た え か て る と い も の に り を け き て  
 と み わ の た え か て る と い も の に り を け き て

そ の い し ず え と な り た ま い き  
 ひ と み だ の に か か み え て を た も た に お が ま む  
 な み だ の に か か み え て を た も た に お が ま む  
 な み だ の に か か み え て を た も た に お が ま む

7676D

※二長調で歌う場合には285の譜を用いることができる

The Church's one foundation  
 Samuel John Stone (1839-1900)

AURELIA  
 Samuel Sebastian Wesley (1810-1876)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| 1 | いとものうとき<br>ちあたい<br>血の値もて<br>きよす<br>聖き住まいを<br>そのいしずえと <sup>礎</sup>                | しゅ天降<br>主はあもりて<br>たみすく<br>民を救い<br>つく<br>造りたてて<br>なりたまいき           |
| 2 | よにい<br>世に生きる民<br>のぞひと<br>望みも一つ<br>一つの <sup>かて</sup> み糧<br>ひとりの <sup>かみ</sup> 神を  | まねう<br>招きを受け<br>わざも一つ<br>ともに受けて<br>ともに <sup>おが</sup> 拝む           |
| 3 | たあらそ<br>絶えぬ争い<br>ひと<br>人のそしりに<br>神は絶えざる<br>なみだか<br>涙に代えて                         | さ<br>み民を裂き<br>なや<br>悩むれども<br>いのき<br>祈りを聞き<br>うた<br>歌をたまわん         |
| 4 | のこ<br>世に残る民<br>ともに <sup>まじ</sup> 交わり<br>とわやす<br>永遠の安きを<br>イエスの <sup>き</sup> 来ますを | さ<br>去りし民と<br>神を <sup>あお</sup> 仰ぎ<br>待ち <sup>ま</sup> 望みて<br>せつに祈る |

詩118：22 エフェ4：1-6 ロマ3：23-25

[ユニゾン]

D A7 Bm G D A

み ことば は ひと となり

(ピアノ系)

(オルガン系)

D Bm G Em A7 D

わ た した ちー の あい だ に すま わ れ た

ことば ひと  
み言は人となり  
わたしたちの間に<sup>あいだ す</sup>住まわれた

ヨハ1:14

Mikotoba wa hito to nari  
John 1:14

MIKOTOBA  
Izumi Shiota (1951-)  
acc. Cecilia Hina Sakamoto (1968-)

1 よろこびの みつげ あまねく のべよ  
 2 み子を世に たもう みいづくし の  
 3 すべての よびとを ときは なち たもう

すくいぬ しイエスの みわざと このとばよ  
 よろこびの みつげ あまねく のべよ  
 よろこびの みつげ あまねく のべよ

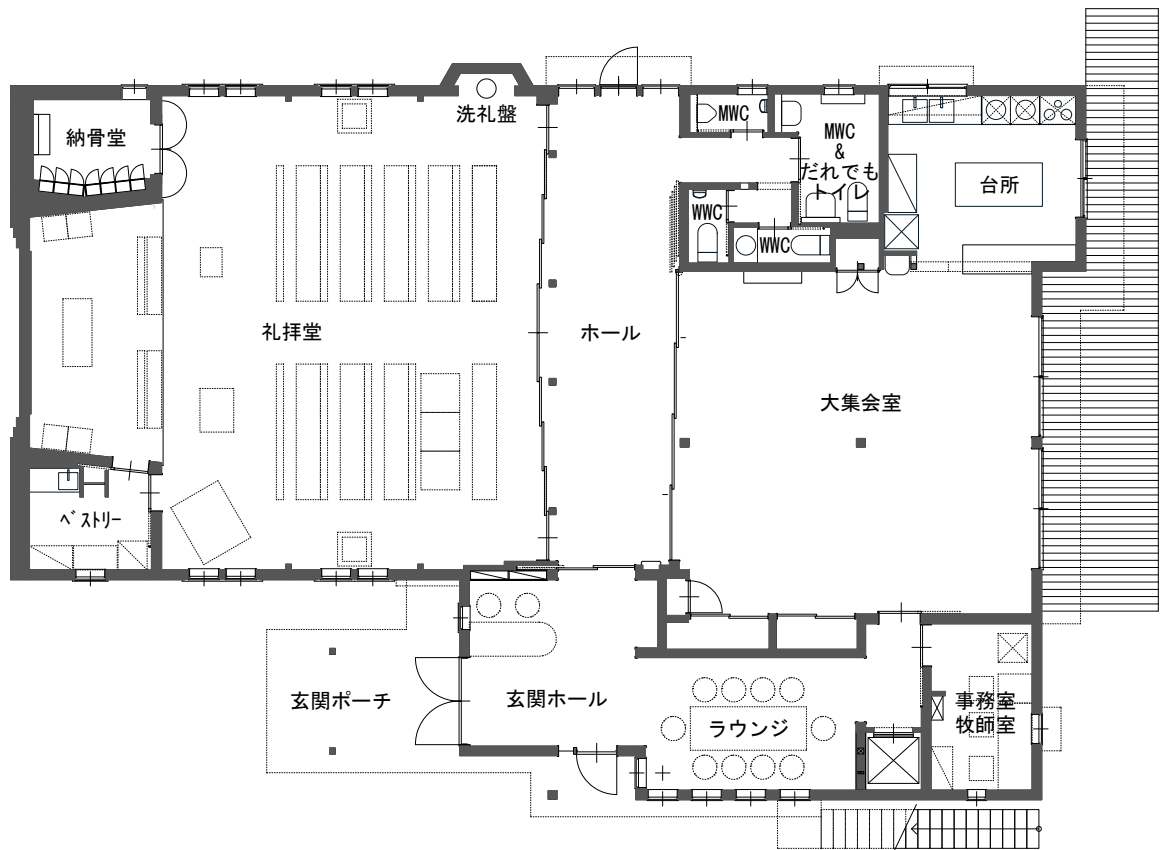
8787

- |     |   |   |
|-----|---|---|
| 1   | <sup>よろこ</sup> 喜びの <sup>つ</sup> み告げ<br><sup>すく</sup> 救い <sup>ぬし</sup> 主イエスの | あまねく <sup>の</sup> 宣べよ<br>み <sup>わざ</sup> 業と <sup>ことば</sup> 言葉 |
| 2   | み <sup>こ</sup> 子を <sup>よ</sup> 世に たもう<br>喜びの <sup>つ</sup> み告げ               | み <sup>いつく</sup> 慈しみの<br>あまねく宣べよ                              |
| 3   | すべての <sup>よびと</sup> 世人を<br>喜びの <sup>つ</sup> み告げ                             | と <sup>はな</sup> 解き放ち たもう<br>あまねく宣べよ                           |
| ▶ 4 | <sup>あわ</sup> 憐れみ <sup>とり</sup> となす<br><sup>よろこ</sup> 喜びの <sup>つ</sup> み告げ  | <sup>しゅ</sup> 主イエスの <sup>わざ</sup> み業<br>あまねく <sup>の</sup> 宣べよ |
| 5   | <sup>せいれい</sup> 聖霊 われらを<br>喜びの <sup>つ</sup> み告げ                             | <sup>つか</sup> 遣わしたもう<br>あまねく宣べよ                               |
| 6   | <sup>せかい</sup> 世界の <sup>は</sup> 果てまで<br>喜びの <sup>つ</sup> み告げ                | すべての <sup>ひと</sup> 人に<br>あまねく宣べよ                              |

マコ16:15並行 ヨハ3:16 ヨハ20:21 使4:31

Yorokobi no mitsuge  
Charles Frederick Warren (1841-1899), alt.ST. OSWALD  
John Bacchus Dykes (1823-1876)

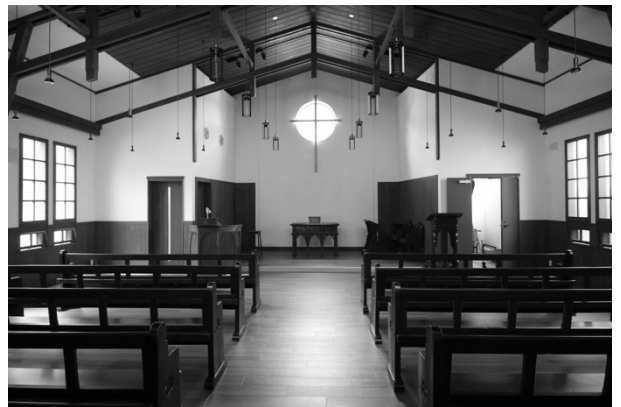
▽ 大阪聖三一教会 1階 平面図



▽ 外観



▽ 礼拝堂



▽ 地域小規模児童養護施設 つむぎ







この式文は、「聖書新共同訳」、「日本聖公会祈祷書」、「日本聖公会聖歌集」に基づいて作成され、日本聖公会大阪教区主教 アンデレ 磯 晴久師父が、救主降生 2022年9月19日「大阪聖三一教会 礼拝堂聖別式、牧師館・集会室 祝別式」での使用を許可したものである。